



# 内子町の新しい風

## 2

INTERVIEWS  
IN UCHIKO  
2024



NEW  
LIFESTYLES  
IN  
UCHIKO

stochi



愛媛県内子町は、江戸後期〜明治・大正期の古い町並みが残る愛媛県屈指の観光地です(重要伝統的建造物群保存地区)。県内のみならず、海外や県外からも多くの方が訪れる内子の町並み。その光景を引き立てているのは、観光風景の向こう側に息づく地元の人々の暮らしです。そこに暮らす人々の営みが町の大きな魅力になっている内子町。古民家が連なる町並みと里山、そんな雰囲気と穏やかな暮らしに惹かれ、移り住む人たちが増えています。

「内子町の新しい風」は、この町で自分らしく暮らす人にスポットを当てた小冊子です。主にプレイヤーとして活躍する移住者の方を特集した前号に対し、今回の「内子町の新しい風2」では、さらに一歩踏み込んで、移住して来られた方々だけでなく、多くの方々から、内子町での新しいライフスタイルについて話を聞きました。ページをめくって内子町の新しい暮らし方・働き方に触れてみてください。



NEW LIFESTYLES IN UCHIKO



## 内子町の新しい風 2

千葉真史・夢子さん(やまま牧場)…………… 4

成見優子さん(天神産紙工場)…………… 6

前田亜佳根さん(Si-on)…………… 8

鷹野友紀さん(スマイル農園たかの)…………… 10

野地岡章悟・芳子さん…………… 14

加藤正人さん(地域おこし協力隊)…………… 16

下野彩乃さん(atochi)…………… 18

MAP & INFORMATION…………… 22



千葉真史・夢子さん(やまま牧場)

山地に生える草と  
愛媛県産穀物を飼料として

国産ヤギを育てています。

「くらしにヤギミルクを。」

生活の片隅にちよこんと

ヤギミルクがある

そんな未来を

目指しています。



んと出会いました。山田さんに「人足りんからうち来て働いてくれ」と言われ、岩手の研修期間も終わる頃だったので拠点も移した方が土地を見つけやすいかと思つて夫婦で内子町に移住しました。働きながら土地が見つかり次第独立しようと思つていたんですけど、土地はなかなか見つかりませんでした。山田牧場さんで丸3年お世話になって、ようやく土地と家の目途が着いた今年(2023年)開業することが出来ました。当初考えていた牛の放牧は、莫大な面積の平地が必要なんです。あちこち土地を探したんですけど、基本的に愛媛県内は急峻な斜面が多く、住宅地が近かつ

急峻な斜面も平気な「やまま牧場」のヤギ達

## 愛媛県で山地酪農をしたくて内子町へ

新居浜市出身の千葉真史さん。東京で出会った夢子さんと結婚後、岩手県・愛媛県の牧場での研修を経て、愛媛県の気候と山間地域に適したヤギ酪農を思い立ち、2023年に「やまま牧場」を開業しました。

とにかく食べるのが好きだったので、幅広く食品に関われそうな東京の香料会社に就職しました。でもやがて、本当に美味しいものを原料から作ってみたいという想いが沸き上がって来まして、その頃、岩手の「なかほら牧場」の中洞正さんの本を読んだんです。山地酪農という文字通り山に牛を放して乳を搾る、従来の畜舎で飼う畜産とは違う農法をされていて「面白そう」だと思いました。東京で出会って当時すでに結婚していた妻と2人で、牧場の2泊3日の研修に参加してみたいです。そこで聞いたお話がすこく面白くて、飲んだ牛乳も驚くほど美味しくて。「これは自分でもやってみたいな」と思つたところ「うちで研修したら」と中洞さんに言つて頂いて、これを機に酪農の世界に飛び込むことになりました。

岩手県では1年間(2019年)研修しました。東北は冬が長いので山地放牧といつても外で草を食べられる期間が短いんです。しかし出身地の愛媛県ならば、冬もある程度草は生えるし、もっと有利にこの酪農を展開出来るのではないかと。縁もゆかりもない土地でやるより愛媛県でやりたいと考えるようになりました。

そこで四国の牧場を見学して周ったところ、1軒だけ内子町五十崎で放牧酪農をされている山田牧場さ

たり、夏が暑すぎたり、牛で牧場を新規に構えるのが、なかなか難しいことが分かってきました。そこで何かいい方法はないか、この土地に適した畜産は何だろう? そう考えるうちにヤギに辿り着きました。

ヤギなら身軽だから急峻な斜面も利用出来るし、牛よりは暑さに強い。これは愛媛の畜産に最適ではないかと思いつきました。新居浜の離島の大島に、イスから移住されてパンを焼きながらヤギを飼うジャックさんという方がいました。その方から最初のヤギ3頭を譲って頂きまして、試しに飼つてみたところ、本当に斜面を登って草を食べるし、夏もへばらない。ヤギミルクも搾って飲んでみたらとても美味しい。これは可能性があると感じて、本格的にヤギ酪農をやってみることにしました。

「やまま牧場」最初の商品「ペット用ヤギミルク」は大好評発売。今後の展開も準備中です。

現在はまず、ヤギミルクを使用した乳製品を進めています。保健所の許可を得た設備もまもなく整備が完了するので、まずは、少ない乳量で可能なプリンから。ミルクジャムやキャラメル等も作りたいたいですね。ヤギのヨーグルトドリンクも予定しています。ヤギのヨーグルトは、きめ細やかで口当たりが良くコクが強いので、インドカレー等にも合いそうですね。国産ヤギの乳製品は臭みもなく本当に美味しいので、いろいろな商品を開発して皆様にお届け出来るように展開していきたいです。

※1 現在は日本を離れ、フランスに移住。



## 成見優子さん(天神産紙工場)

アナログだから  
作っていて本当に楽しい。

## 毎日ものづくりが出来る幸せ

国指定伝統的工芸品の大洲和紙を生産する天神産紙工場で働く優子さんは、2024年で勤続12年目になる手漉き和紙職人です。

五十崎というか天神生まれで、この工場から徒歩10分の実家から今も通っています。近所に、ここで紙漉きをやっていた千鶴子さんという方がいて、うちのお隣さんだったんです。

中高は地元の学校に通いました。小さな頃から何か作るのが好きで、大工のじいちゃん真似して何か作ったり、絵を描いたり、アナログなことに興味があったので、松山のデザイン専門学校でイラストを学びました。2年目の就職先を探す時期に、他の人はデザイン事務所などに就職しようとしていましたけど、私はそっちじゃないなと思って。デジタル関係も学んだことで、やっぱりアナログの方が好きだなと感じていて、何かないかなと思った時に、ぱっと思い付いたのが近所の天神産紙工場だったんです。

紙は絵を描くのに使いますし、自分で紙から作って絵を描くのもいいなって、最初は本当にそれぐらいの気持ちでした。それで親に「紙漉きってどうやらな、求人ってあるんかな」という感じに軽く言ったことがあったんです。そしたら親が千鶴子さんに話して、千鶴子さんは社長に話してくれて、いつの間にかとんとん拍子に「ちょっと面接においでや」という話になりました。

伝統工芸ですけど  
コツコツものづくりを  
するのが好きな私にとって  
現在進行形の  
飽きない仕事です。

実は、その面接では「人は足りてるんじゃない」と言われたんです。後から聞いた話ですけど、当時、職人さんが高齢化してましたが、求人は考えていなかったみたいなんです。でも専務とも相談する中で、社長が「雇おうか」という気持ちになったみたいで、私のところには「やっぱり採用します」という連絡が来たんです。ちょっとびっくりしましたが、それで就職が決まりました。

12年はあつという間で、毎日やってたらいつの間にか12年経っていた感じなんです。でもまだ、もっと上手くやれたらと思うところはあつて、全然自分では納得出来ていないので、やることいっぱいあるなという感じです。

伝統工芸の継承という  
と難しそうに感じるが、そ  
ういったことを動機に持  
たずに、地元五十崎の手  
漉き和紙の職人となった  
優子さん。

そうですね。むしろ「伝  
統工芸ってなんぞや」と

いう気持ちです。今やりたいことだから、作りたいから作ってる感じですね。アナログだから作っていても本当に楽しいんですよ。ひとつ出来上がっても、違う方法でもっと上手く出来ないか考えたりとか。頭使つて考えないと先に進まない仕事の方が心地よくて、その行程が楽しいので。(和紙づくりの工程上)私の力量ひとつで、結果が全く変わって来るじゃないですか、そういうのが面白いんです。私が上達すれば和紙のクオリティが少しずつ上がっていくのが楽しい。1つ出来るようになっていくなると、やれることが増えていって、そういう実感が持てる仕事に就いた感じなんです。だから飽きずに続けていられるんだと思います。

そんな優子さんには今では2人の後輩が。最近、天神産紙工場の和紙づくりを一緒に継承する仲間が増えていきます。

伝統工芸をやりたいと言って、3年前に入ってきたくれた千葉君は、今、原料づくりを先輩に学んでいます。乾燥に入ってくれている1年目の久保さんは、私に近いタイプですね。コツコツやる作業をすごく楽しそうにやっています。

冬寒くて、夏暑いのは間違いない職場なんですけど、コツコツものづくりを楽しめる人で、自分のやりたい気持ちが勝つて、苦にならない人なら楽しめる仕事だと思っています。

五十崎社中(天神産紙工場)公式ホームページ



まえだあかね  
前田亜佳根さん(Si-on)



Si-onの強みは  
縫製工場が作る  
服であること。

工場内の直営店は  
この五十崎の  
風景の中で  
ゆっくり贅沢に  
服を選べていいねと  
お客様に  
言って貰えます。

いくんだなという流れが分かりました。

「Si-on」の一番の強みは、縫製工場なので、服をここで作れて、着心地が良い・悪いという、自分達の体感を商品に落とし込めることです。メインのお客様は、母世代の女性の方ですけど、若い方や男性のお客様もいらつしやいます。「Si-on」の服は、生地が華やかなので、デザインはシンプルなんです。シンプルなデザインだからこそ細かいところにこだわりがあって、細みに見えるけど、ゆったりめのシルエットで作ったり、着た人には分かって貰える工夫に溢れています。流行りではない、お客様一人ひとりにちょうどいい、少しニッチな商品かなとは思います。

そういう仕事を10年位した頃に主人と出会いました。西予市出身の人で、一緒に家業に入ってくれることになったんです。パートナーと一緒に仕事をしてくれることで、私も覚悟がついて、それを機に「Si-on」に本腰が入るカタチになりました。

展示会や百貨店での販売、松山での出店等を経て「Si-on」は、自社工場内での直営店展開というスタイルに辿り着きました。

ここでお店をしたい理由は、工場でお直

## 母の夢だった自分達の商品の店

内子町五十崎にある家族経営の縫製工場が実家の前田さん。大学で東京にいましたが、生まれ育った地元に戻った。現在、お母さんと立ち上げた縫製工場の自社ファッションブランド「Si-on」で活躍中です。

もともと「Si-on」ブランドを掲げる前に、残った生地を使用して作った服を、知人に原価に近い価格で販売していたんです。縫製工場は繁忙期・閑散期がある職種なんですけど、職人さんにお休みして貰うわけにいかないし、自分達で仕事を作る意味で細々とやっています。その一方で、母には「いつか自分達の商品でお店をしたい」という夢があると聞いていたんです。そんな中、自然な流れで「展示会に出しませんか？」とお誘いを貰いまして、それがきっかけでブランド的な準備をしたことが「Si-on」の始まりでした。

私は、東京の大学へ進学し、そのまま就職したんですけど体調を崩して辞めまして。その時「ひとまず帰っておいで」と言ってくれた両親が、また東京に戻る可能性も自由に選択出来るように受け入れてくれたんです。それで、次が決まるまでひとまず工場と一緒に仕事をしようということになりました。もともと黙々と作業するのが好きで、作業しながら「もっと上手くなるには」を考えられるタイプだったので、自分からどんな仕事の面白さにハマっていきまして。ミシンの現場に飛び込みで入ってからは、直接母に教えて貰って。心地よいプレッシャーの中で、仕事を任されて作業して。だんだん出来るようになっていくのは快感でした。それと同時に、服ってこうやって出来て

しが出来ることと、直接自分達でお客様とのやりとりを持てること。わざわざこの五十崎の風景の中に来て下さるお客様は「ゆっくり服を選んで、静かに贅沢に時間を過ごせるのがいいね」と言って下さいます。

山と川と虫が大好きな、小学生の息子の子育てもこの五十崎でしています。親が工場で働いているから、私の小さな頃と同じように、うちの子も会社に来ます。工場はママさん同士の職場でもあるので、みなさん見てくれて子育て環境としても良いですよ。

今後は、いよいよオリジナル生地での服の展開を始めます。また将来的には、五十崎の人はもちろん、愛媛県内の服飾専門学校で勉強した人達の就職先にも出来たらいいなと考えています。せつかく服づくりを勉強しても、県外に出るか販売員になることが多いと思うので、地元で服を作りたい人にとっては、最適な職場のひとつじゃないかなと思うんですよ。

Si-on公式ホームページ



鷹野友紀さん（スマイル農園たかの）

農業は「自由」です。山を眺めて自然相手に暮らす日々です。

美味しいものを作りたいです。食べた人が幸せになれるから。

神奈川県藤沢市出身で、現在奥さんとお子さん2人の4人で内子町に暮らす鷹野さん。果樹農業を始めるために、大学を卒業してすぐに内子町へ移住して、現在11年目になります。

大学3年生の時には、農業で地方移住をある程度考えていました。東京で「新・農業人フェア」というイベントがあったので参加してみたところ、全国から出展している自治体の中に、内子町ブースがありました。春休みを利用して各地を巡って、内子町にも3日ほど滞在しまして、役場の方にいろいろ案内して貰ったのがきっかけです。

美味しいものを食べるのが好きで、中学生の時に自分で実家の庭にキウイフルーツを植えたりしていました。特別な理由はなくて、そういうのが好き



だったんです。大学では法律の勉強をしていて、当時はいきなり農業に踏み込めなかったので、公務員になる勉強もしていました。でもやっぱり、会社で誰かに使われるよりは、農業は「自由」ということもあって、自分でやった方がいいなと思ったんです。内子町に決めた理由は「星が見えるところ」というのが多くの絶対条件だったんですけど、星も見えないし、愛媛県の「愛」という字が好きなのも理由のひとつでした。実際に来てみると、どこかのんびりした雰囲気、せわしくないし落ち着きました。松山にも近くて不便じゃないし、

人口規模もそれなりにあるので、果物も「からり」の産直で売れそうかなと思います。

内子町に移住後はまず「エコファームうちこ」での2年間の研修を経て、いよいよ実際に独立・就農していきました。

研修期間中に、空き家と農地を探しました。空き家は空き家バンクで。農地は、まだ移住して来たばかりで信用がないので、話が途中で駄目になっ

皮ごと食べられる完熟イチジク  
本当に美味しいです



毎日この風景を眺めて農業をする暮らし

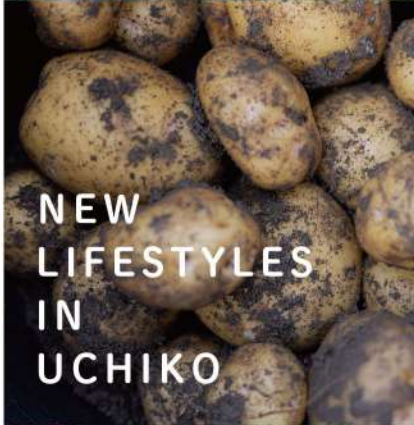


たこともありました。ほくは、荒地でも構わないという条件だったので、なんとが見つかりましたが、最初は新規就農者なので道具も何もなかったんです。地主さんに良くして貰って運搬車を頂いたり、バイト先に給料代わりにコンテナを貰ったり、重機を出して貰って開墾したり。本当に多くの方にお世話になりました。今は、2ヘクタールちよつとの果樹園を1人でやっています。赤いキウイフルーツで、味わい深くてコクのある美味しい品種があるんです。普通の緑と黄色いキウイフルーツやピワ、レモンもやってます。あとはイチジクです。イチジクも他の品種と全然違うものがあるんです。ほくは量より味が第一です。品種にこだわって、美味しいものを作りたいんです。人は美味しいものを食べると、元気が出て、幸せを感じますよね。ほくが作った果物を食べた人に幸せになって貰いたい。それがなにより一番の想いです。

これから就農する方、移住を検討されている方に伝えたいのは、今が本当にチャンスということ。地域の高齢化がすごくて、辞める方がとても多いんです。数年先だと技術を教えてくれる人がいない可能性があるんです。今がチャンスです。

スマイル農園たかの Facebook





NEW  
LIFESTYLES  
IN  
UCHIKO

## 野地岡章悟・芳子さん

子ども達が、こっちに来て自分らしく生きれてると思います。



移住のきっかけは不登校だった長女の高校受験でした

これまで転勤が多かった野地岡さん。2023年に家族5人で内子町小田へ移住。長女みなみさんは内子高校小田分校へ、次女のほなみさん・三女のななみさんは小田小学校へ入学しました。

章悟さん(以下章)ほくの仕事は転勤が多くて、大阪・金沢・岡山・また大阪と、家族ですつと転動してきました。長女が学校行けなくなった理由もそれが大きな要因でもありまして。これではいけない、今後は子ども中心の生活に切り替えたいと考え移住しました。

芳子さん(以下芳)長女は「ママとパパについて行くよ、私は大丈夫だから」と、ずつと我慢して。最後の大阪への転校で、みんなの役に立ちたいって児童会に入ったりしてがんばってたんですけど、それを「転校して来て偉そうや」とか言う子らが結構いて…。ちょうどその頃コロナが流行って、中学校も1か月、2か月休みに

なって、そこでプツンと糸が切れてしまつて。そのまま中学校3年間、学校に行けなくなつたんです。

章これはマズイなど。こちらの都合の転勤が原因なので、これは環境を変えてあげるしかない。それで、2022年の9月頃、高校進学について考え始める中で、偶然見つけたYoutubeのCMに「内子晴れ」の山内さんが映っていたんです。山内さんの笑顔という魅力に惹かれてSNSで直接連絡しまして。内子町に興味湧いて、いろいろ検索する中で「おだこう」の動画も上がってきて。「これはいいんじゃないか」と長女に見せたら、即決で「この高校に行ってみよう」と言いまして。それで内子町に来てみたのが最初ですね。

移住促進コミュニティ「内子へいじゅー!」を活用し、役場の協力で最適な空き家も見つかり、小田へ移住した野地岡家。長女みなみさんは



地元の民俗芸能を舞うみなみさん

地域の祭りにも参加し、のびのびと「おだこう」生活を送っています。

芳長女は積極的に地域のことを考えて、小田分校を残す活動として「おだこう」の良さをSNSで発信もしています。中学校はほとんど行けなかったのですが、本当にがんばってるなって。不登校だった子には見えないでしょ？

章「おだこう」は個性派揃いですよ。自分を上手く表現出来ない子もここにきて、自分の居場所を見つけている感じですね。人数が少ない中でまず自立して、環境として絶対にいいと思います。

芳そして地域の皆さんがほんまにあつたかい。実は、小田小学校の次女と三女の同級生の親御さん達が、歓迎会を開いてくれたんです。引っ越し当日に小田の食堂で夕飯を食べたんですけど「もし小田の野地岡さん?」って声をかけて下さったお母さんがいらして、その方が歓迎会を呼びかけてくれて。そのおかげで、小田小学校も入学式前にみんなと仲良くなってからスタウト出来たんです。もうびっくりです。すごいことやなって。本当にありがたい。こういう暮らしが私達家族の理想でした。章本当に地域に溶け込みやすいです。それが小田の良さでしょうね。

芳皆さんにあたたかく受け入れて貰ったので、その分、私達も貢献したいですね。

※1 町並み保存地区内の古民家ゲストハウス。オーナーの山内大輔さんも移住者。 ※2 おだこう INTERVIEWS 動画

※3 内子町の移住促進オンラインコミュニティ ※P.22 参照





東京で迷っていた自分を  
救ってくれたのが  
この内子町なんです。



## 1年間を通して10回内子町に通いました

栃木県宇都宮市出身の加藤さん。大学で上京して以来、約20年間を東京で暮らしていました。前職は、TVのバラエティ番組の構成作家さん。コロナ禍やTVが斜陽産業化する中で将来に不安を感じて、地方移住を考え始めました。

GO TOトラベルの1回目の時に、瀬戸内海沿いの県をいくつか1人旅して、地方移住するなら、こんなところに住みたいなと思ったんです。移住を考えるにあたって、東京の有楽町の「ふるさと帰郷支援センター」に相談に行きまして、そこで愛媛県を紹介して貰いました。八幡浜市に友人がいたので連絡をとってみたら「すごくいいところですよ」と言っていて、自分の地元をそんな風に人に勧められるのいいなと思って、一度愛媛に行ってみることにしました。

ただその時は、コロナ禍の始まりの頃で、八幡浜の友人が仕事柄、東京から来た人に会えなくなっていました。では、どこに泊まるうかとなりまして。愛媛県を調べる中で「内子晴れ」という宿のこと、オーナーの山内さんが移住者だということを知っていたので、移住相談も兼ねて「内子晴れ」に泊まってみることにしました。それが内子町との出会いでした。

初めて内子町を訪れた時、宿のチェックイン前に、事前に調べていた「みそぎの里」方面にドライブしたんです。そうしたら、みそぎの里近くにある「常盤橋」が本当に美しく車を停めて見入ってしまったんですね。周囲の田園風景も綺麗でした。その後、内子晴れで山内さんか

まして、2022年10月に内子町小田へ移住しました。

移住後もリモートで仕事をしていた加藤さん。でもせっかく移住したのに、自宅での仕事は地域の人との関わりがありません。そんな時に「道の駅内子フレッシュパークからり（※以下からり）」の地域おこし協力隊員募集の情報が、意を決して応募し、見事合格しました。

内子町を好きになった理由が、村並みの美しさで、その美しさを支えているのは農家の方々なので「からり」なら、農家さんの後押しになる活動が出来るかと考えました。色んな人と関係性を築けるから、それは後々この地で生きていく財産になると思っています。

「からり」でのほくのミッションは「商品の企画開発」です。観光客の方のお土産になる内子町の名物を開発していきます。また「からり」の山口社長から、こんなこと出来ないかなって色々リクエストを貰って、週末にワークショップの企画・開催をやっています。「からり」は自分達で稲作やじゃばら作りもしていて、田植えを手伝ったり、トラクターに乗ったり、農業もやっていますね。他にも、東京でのイベント出店に同行したり、繁忙期には産直の売場にも立っています。

実際に住んでみて、居心地は絶対に内子町の方がいいですね。もっと色んな人に内子町に来て欲しいです。内子町のいいところを紹介したいし、色んな人を繋げる活動もしたいです。地元の方もウエルカムな人が多く、移住者同士のコミュニティもしっかりしているの、移住しやすい町なのは間違いありません。



加藤さんが感動した御成地区の常盤橋



ら、この町は何十年前前から、町並み保存・村並み保存に取り組んできたという話を聞いて興味を持ち始めました。石畳に行ったり、小田の岡山さんに会って町話を聞いたりしました。その時の山内さん、岡山さんの人柄が優しくて、すぐにもう1回来たいと思ったんです。

それから1年間を通してなんと10回、内子町へ通い続けた加藤さん。内子町を訪れる度に色んな人を紹介して貰えたので、まだ移住前なのにどんどん内子町の知り合いが増えていきました。

ほくは性格的に、ぱっと移住出来るタイプじゃなくて、移住したいけどなかなか決断出来ない状態がしばらく続きました。その頃、新しく参加した「内子ヘイジャー」のラジオで、運営の市毛さんが「空き家ツアーをやりたい」と話していて、山内さんからも「今度来た時に家見ますか」と言われていたので、1回空き家を見てみようかなと。市毛さんに打診して空き家を見学することになりました。

最初は本当に、決めるつもりはなかったんですけど、岡山さんが紹介してくれた物件がすごく広くて綺麗で、「ここに住めるなら移住したい」と思えたんです。岡山さんを通じて大家さんにご挨拶して、正式にその家を借りたいとお願いし



立川の秘密基地みたいなの

跡地は家族みんなの

お気に入りです。



子育てしながら自分達のペースで  
やりたいことをゆるゆると

埼玉県出身の下野さん。五十崎出身のご主人と結婚されて愛媛県へ移住。現在は内子町立川のガソリンスタンド跡地にて、スパイス店を営んでいます。

大学のサークルの先輩に、内子町五十崎出身の方がいらっやっただんです。大学1年生の時に愛媛県にみんな遊びに行こうって、冬休みに友達と先輩達と愛媛県に來まして、そこで夫と知り合ったのが最初です。

その後、当時ヨメニで繋がっていたんですけど、私が大学4年生の夏休みに、一人旅で自転車で日本一周をしようと思ったんです。(日本一周は叶わなかったんですけど)埼玉県から出発して、北海道の最北端まで行ったんです。でも関東に戻って来た頃には、時間もお金もギリギリになっちゃって。それでも「とりあえず愛媛県まで行こう」って自転車で來まして。しまなみ海道を渡って今治まで。先輩が迎えに来てくれる予定だったんですけど、仕事で來れなくなって、代わりに迎えに来てくれたのが夫だったんです。その再会がきっかけでお付き合ひして、結婚して愛媛県に來ました。

内子町と松山市を結ぶ国道沿いにあるスパイス店「atochi」。出産・子育てをしながら無理なく、立川の地域の方とも交流しながらお店を営んでいます。

松山や三津の物件も見たんですけど、夫も私もやっぱりお店するのなら内子町がいいなと思って。色々探して秘密基地みたいなの物件を見つけて、夫婦で気に入っ

て決めました。

立川の地域もこの物件がきっかけで知って魅力に気づいた感じです。このお店はたまたま立川の中心部なんです。小学校もそこあって、予讃線の駅もあるんですよ。すぐ気に入ってます。今年家族でお店に泊まった時に気づいたんですけど、すぐ裏の綺麗な川でホタルも見えますよ。

近所の方たちも時々お店に來てくれますよ。月イチでうちの大家さんとおばあちゃん達がお茶会を開いてくれるんですよ。そういう使い方をしてくれるのすごく嬉しいですね。

お店は自分達でリノベーションしました。壁は自分達でモルタル塗って。天井は剥がしたら出て來た鉄骨をそのままにして。



このトウモロコシキシャが店の目印



atochi インスタグラム





今回ご紹介した方々の活動拠点が分かる内子町全域マップです。中心部に限らず多様なエリアで活躍されていることがわかります。

## NEW LIFESTYLES IN UCHIKO

取材協力:

やまま牧場 / 天神産紙工場 + 五十崎社中 / Si-on + 株式会社アド・コーパレイション  
スマイル農園たかの / 野地岡家の皆さん / 道の駅内子フレッシュパークからり  
atochi / 内子町の皆さん



## 内子町関連 WEB コンテンツ

内子町観光サイト: **内子さんぽ** <https://www.we-love-uchiko.jp/>

内子町公式観光サイト! 観光スポット・グルメ・宿・体験・モデルコース等  
愛媛県内子町の観光情報はコチラをご覧ください!

内子町移住定住支援サイト: **うちこんかい** <https://www.town.uchiko.ehime.jp/site/ijyu/>

空き家バンク・移住者インタビューなど充実の内容!  
愛媛県内子町への移住をお考えの方は、ぜひコチラのサイトをご覧ください!

内子町移住促進オンラインコミュニティ: **内子ヘイジュー!** [https://mercado-d.com/uchiko\\_heiju/](https://mercado-d.com/uchiko_heiju/)

全国各地から無料で参加OK! 移住前に現地に知り合いが作れるコミュニティ!  
メンバー約300名! 現地から発信するラジオも配信! ぜひご参加下さい!



内子さんぽ



うちこんかい



内子ヘイジュー!



空き家バンク



UCHIKO

## 風の吹く町、内子町

テキスト / 市毛友一郎 (メルカドデザイン)

2019年に発刊された前回から早5年。この度「内子町の新しい風2」を作らせて頂きました。この「内子町の新しい風」という小冊子は、内子の町並みをはじめとする歴史情緒溢れる愛媛県内子町の観光風景の向こう側には、そこに暮らす人々の生活があり、その営みこそが町の魅力を引き立てていることを、観光で訪れる皆様にも少しだけ感じて貰うことを目的に企画したものです。

今回は、前回の副題「NEW PLAYERS IN UCHIKO」と少し趣きを変えて「NEW LIFESTYLES IN UCHIKO」としてみました。内子町という町に魅せられ、そこに暮らし、新しいことや面白いことを始める人達がいる。その人達を紹介したいという想いで取材を進めたところ、今回は主に「移住者」の方々を紹介するに至ったわけですが、内子町で素晴らしい活動を始めている「新しい風」達は(当然ながら)移住者に限りません。今回は特にその点を意識して取材を進め、内子町出身で地元に残って活動をされている方、家族で移住された方、就農者の方などにお話を聞くことが出来ました。今回も「人」にスポットを当てながら、より生活に根ざした「暮らし方・働き方」をされている方々に取材のご協力を頂きました。おかげさまでとても充実した内容の冊子になりました。

中でも特筆すべきは、内子町に生まれ育ち、現在も町

内で「ものづくり」に動んでいる2人の女性にお話を聴けたことです。彼女達の話に共通していたのは「生まれ育った地元に残って働くことは、何も特別なことではない」ということでした。若い人が地元に残って活躍する事例は比較的少ないので「何か特別な想いがありますか?」とよく訊ねられるそうです。しかし2人の話を聞けば、何も特別なことはなく、ただ自然な流れで今の仕事に就いたことがわかります。若い人が「一度は外の世界を体験することは、個人的にはおすすめてですが、その一方で「町外・県外に出ずに、残れるなら地元で働きたい」と考えている人も一定数いると思うのです。同級生が次々に都市部へ出ていく中、ひとり地元に残るのは、もしかすると少し勇気がいることかもしれません。そういう人達にとって、今回の2人の先輩の話はとても励みになると思っています。ぜひ読んでみて下さい。

愛媛県内でも特に文化的な色合いが濃い地域でありながら、とても豊かな自然に恵まれている内子町。その地に魅せられ、癒され、居場所を見つけ、暮らし、働く、内子町の風達。今日もまた、新しく清々しい風が生まれていることでしょう。機会があればぜひ一度、風の吹く町「内子町」に足を運んでみて下さい。

NEW LIFESTYLES IN UCHIKO

Designed by *キムチキチ*

内子町の新しい風 2

2024年3月31日発行  
愛媛県内子町

